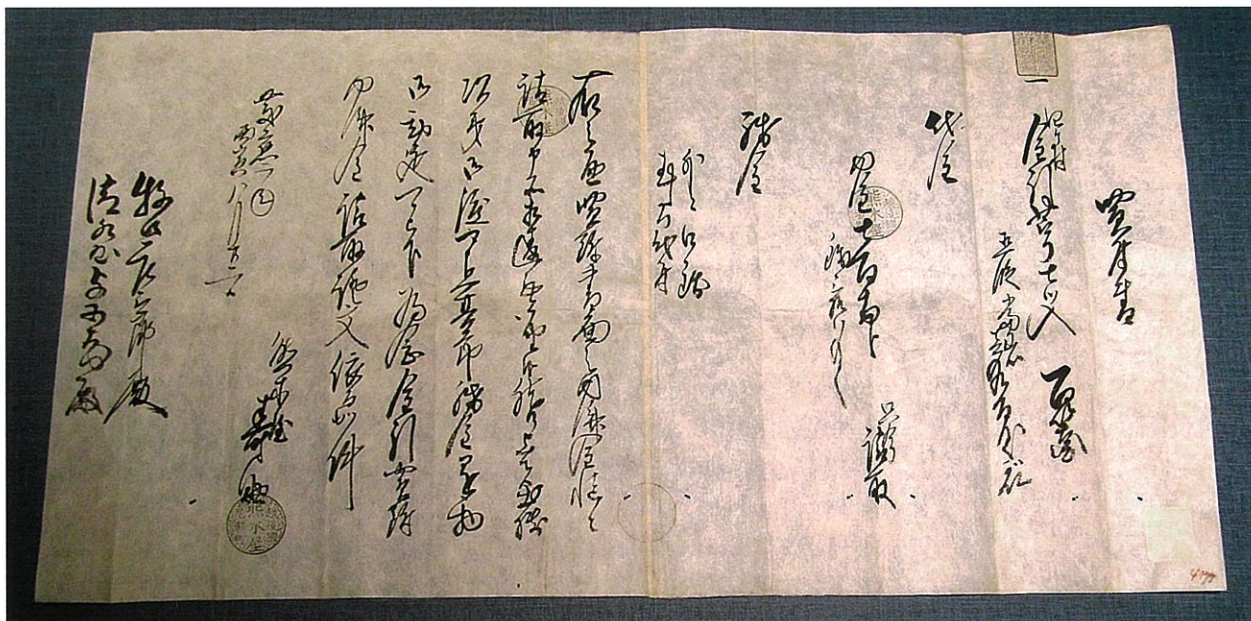


柏崎市立博物館友の会 ◆〒945-0841 新潟県柏崎市緑町8-35 赤坂山公園内 TEL 0257-22-0567

博物館モノがたり

かなびきお 金引苧の買付書



▶金引麻
「カシラカキ」という漁網の製造過程で、糸に繋ぎやすいように、麻の根本の固い部分が、かき取られた状態のもの。



買付書
一 四ヶ村
金引苧七ツ入 百箇
直段 当番
惣貫九百匁宛
代金
内金七百両と 只今請取
銭三拾八貫文
残金
外二口銭
むしろ代付
右之通買附書面之内済金繰二
請取申所相違無御座候 然ル上者出揃
次第御渡可申上 其節殘金懸物
御勘定可被下 為念金引買附
内済金請取証文 依而如件
熊木屋
寿助
慶應二年
丙寅八月廿二日
牧口庄三郎殿
清水屋与五右衛門殿

この古文書は、廻船問屋と船主が「金引苧」を取り引きしていたことを示す買付書です。差出人である熊木屋寿助は出雲崎の廻船問屋で、産地と思われる4ヶ村から買い入れた金引苧100個(1個7ツ入り)を金700両と銭38貫文で(手数料など除く)、牧口庄三郎と清水屋与五右衛門に納めたことがわかります。

この「金引苧」とは麻の一種ですが、麻の種類を示す名前ではなく、その繊維が強いことを金属に例えた呼び名とも言われています。麻の繊維は天然素材でも強靱で、水に濡れるとさらに強くなり腐りにくいことから、漁網の原料にも利用されてきました。かつて柏崎市の荒浜と宮川では「麻苧網^{あぞあみ}」と呼ばれた麻繊維の漁網が製造され、ニシン漁の盛んな北海道へ海運で出荷された特産品で、その原料には出雲崎経由の「金引麻」が使われていました。

熊木屋から金引苧を仕入れた牧口と清水屋の両名は、荒浜村(当時)で海運業の船主です。商人が地元の特産品を船荷とする可能性は高く、それが麻繊維の漁網であることを考え合わせれば、この買付書に見える金引苧とは、その原料として仕入れたものと推測されます。(池田 孝博)

友の会行事報告

学芸員のオタク講座⑦ 中世のおかね ― 一括出土銭から考える―

5月25日(土) 9時30分～11時30分 参加者11名

昨年から始まった学芸員のオタク講座シリーズ。7回目となる今回の講師は伊藤学芸員です。柏崎でも発見されている一括出土銭の話をはじめ、出土銭の年代の推測方法や模倣銭などを学び、遺跡の事例からは地域の歴史を知ることができました。また、当館へ寄贈いただいた一括出土銭が入っていた壺や中身の銭も見学しました。展示室では質問が飛び交い、参加者の熱意が伝わりました。



秘境・秋山郷の大地と歴史を歩く ― 苗場山麓ジオパークめぐり―

6月8日(土) 8時30分～16時30分 参加者19名



見倉橋



龍ヶ窪

6月…早くも少しずつ暑さが感じられてきた中、バスで一路目指したのは夏でも涼しいという秘境・秋山郷。

最初の訪問先は、眼病にご利益あるとされる「見玉不動尊」。メグスリノキのお茶など早くもお土産を手にも、見晴らし台や車窓から大地が作り出した奇跡の地形、柏崎市立博物館前のシンボルでもある“柱状節理”を眺めます。山肌に連なるその姿は実に壮大です。

中津川峡谷にかかる「見倉橋」は映画『ゆれる』で一躍有名になった吊り橋でしたが、激しい揺れに10歩で挫折。余裕で往復する人達に尊敬の拍手を贈って応援しました。

待望のお昼は、鈴木牧之が愛した宿「苗場荘」にて岩魚・早そば・堅豆腐など名物満載の特注「秋山御膳」。滋味溢れる素朴な中にも旨味もボリュームもたっぷりで大満足です。

午後は苗場神社・十二神社の参詣、二鶏二猿の庚申塔を鑑賞した後、涼しい天然トンネル・ブナのトンネル

を潜って、苗場山と秋山郷が一望できるトドの展望台へ散策。

バスツアーの最後は「龍ヶ窪」…深いエメラルドグリーンの水面に水の泡が湧き上がり、今にも龍神の現れそうな神秘的な池に、辰年で年女の今年訪れることが出来たことに運命を感じ、感謝の想いでツアーを終えました。

道中を通して、常に水と風の流れる感じる涼しさ先取りの旅…ぜひ、また夏に再訪したい充実の旅でした。

(友の会会員 小網靖子)



前倉トドの展望台で集合写真

学芸員のオタク講座⑧ 縄文人の祈りのかたち

6月22日(土) 13時～15時 参加者7名



8回目となるオタク講座は、中野学芸員が講師です。縄文時代の土偶の写真資料を中心に見ていくと、歴史の教科書に載っている土偶とは一味も二味も違う、バリエーションに富んだ土偶の数々を見ることができ、参加者も興味津々でした。妊娠や出産、子育てなどの様子が土偶に表現されていたり、仮面や石棒、埋^{うめがめ}壟にも様々な祈りが込められていることを学ぶことができました。

探訪! とんりの博物館① —新潟・湊町編— 北前船で栄えた湊町めぐり

7月27日(土) 8時~16時 参加者14名

山形や秋田の豪雨被害が伝えられる中、柏崎交通の小型バスで出発。ぎおん祭りや花火見物の疲れでボーっとしているうちに、新潟市内に入ります。今回は北前船が活発に活動していた「新潟湊」の神社や史跡・旧跡など8カ所を訪ねます。

まずは「白山神社」。背の高い大輪のハスが広がる池の真ん中にはラジオ塔も健在。懐かしい。拝殿にあるタテ



日和山 住吉神社で集合写真

1.9m、ヨコ3.6mの大きな船絵馬には、江戸後期の新潟湊の情景が細かく描かれ、江戸城や大阪城も隅に配置されています。

「日和山」は湊や海岸近くにある、お天気を観測する見晴らしのよい高台で全国各地にあります。山頂の「住吉神社」は、海上交通安全を祈願するものです。高い建物の無かった当時、海のほか四方の眺望にも優れた名所でした。方位を見る十二支が刻まれた二代目「方角石」も足元にありますが、今は海も見えません。

「旧小澤家住宅」は、江戸時代後期から米穀や回船業で活躍した商家で、木造2階建て店舗兼住宅。隣地取得などに伴う敷地拡大で、増改築も多い複雑な構造ですが、間取りや庭の配置などをボランティアガイドに案内してもらいました。

昼は魚市場創業者の住宅

を改装した「魚や片桐寅吉」で海鮮定食を堪能しました。

「金刀比羅神社」には、暴風雨で難破しかけた船が讃岐の金刀比羅山の御加護で難を逃れた経緯を刻んだ「難船彫刻絵馬」があります。一緒に刻まれた由緒書きには、石川雲蝶の弟子とされる長谷川雲越など3人の彫刻師の名もありました。

「湊稲荷神社」にある石造りの「願掛け高麗犬」は、回すことができる構造です。船乗りで賑わう花街の女性達は、西風が吹いて船が出港できないことを願い、向きを西にしたとのこと。この「荒天祈願」が願掛けの習俗として伝わり、三代目の今、女性は向かって左側の高麗犬、男性は右側を回します。

「みなとぴあ」は幕末開港5港のうち、唯一姿そのまま保存された「旧新潟税関庁舎」を中心とする施設で、「北前船と新潟」展の初日。学芸員さんの説明も聞きやすく、もっと時間があればと思いました。

「万代島鮮魚センター」は新鮮な水産物のほか、バーベキューや串焼きの店など、イベントもあって大変な混雑で、戸惑います。

帰途も車内でボーっとしていると、佐渡島の金山の世界遺産登録決定!のニュースが入ってきました。

(友の会会員 赤川道夫)



金刀比羅神社 難船彫刻絵馬



みなとぴあ「北前船と新潟」展

10月~12月の友の会行事案内

参加者募集

お申込み方法

電話で友の会事務局(0257-22-0567)にお申込みください。

その際、参加者全員のお名前、連絡先(できれば携帯番号)、友の会会員か非会員かをお知らせください。

行事の申し込みは

10月2日(木)9時から

受付いたします

注意!



渚の宝もの①

高浜海岸で秋のビーチコーミング

高浜海岸に打ち上がる、貝・流木・ビーチグラスなど様々な漂着物を拾い集め、ビーチコーミングを楽しみます。来年3月の行事、オブジェづくりの素材として活かすこともできます。

日時 10月23日(水) 9:00~11:00
集合 旧高浜小学校下の駐車場
定員 15名(先着順)
講師 渚を楽しむ会
参加費 会員 無料、非会員500円(中学生以下は無料)





【1泊見学会】美味巡礼

みけつくに

御食国・若狭小浜を歩く

—鯖街道と北前船で栄えた歴史と文化—

海産物などを朝廷に貢ぐ地域を御食国といいます。豊かな海の幸に恵まれた小浜は、古くから奈良や京都との交流が盛んで、江戸期からは北前船の海運の拠点としても栄えました。小浜の町並みや古寺社、そして食文化を通して、その歴史と風土を堪能します。

日 時 11月1日(金)～2日(土)

出発／1日(金) 6:30

帰着／2日(土) 18:00予定

集 合 博物館下の駐車場(大洲コミセン斜め前)

見学地 **1日目** 御食国

若狭おばま食文化館、小浜まち歩き(北前船が育んだ歴史的街並みを地元ガイドさんが案内)、辻々の化粧地蔵、八百比丘尼伝説の寺・空印寺、鯖街道の起点ほか **昼食** 濱の四季「鯖街道定食」

宿泊 小浜市・若杉末広

亭(料理旅館) **2日目** 若

狭一の宮下社(若狭姫神社)、神宮寺(奈良東大寺二月堂へのお水送りの古刹、重文・薬師三尊、十二神将)、鵜の瀬(お水送りの聖地、二月堂若狭井の水源伝説)、明通寺(国宝の本堂・三重塔、重文の仏像5体)、鯖街道・熊川宿散策 **昼食** 熊川宿まる志ん「鯖寿しご膳」(葛そば+鯖寿し)

定 員 25名(先着順)

参加費 会員:36,000円

(バス代+宿泊代+昼食2回+拝観料含む)

非会員:40,000円(同上)



小浜まち歩き(三丁目)



お水送りの聖地・鵜の瀬



国宝・明通寺三重塔

和紙のはがきづくり

和紙の原料となるコウゾ(楮)を材料に、温もりのある和紙のはがきを作ります。なお、漉いたのはがきは押し(水切り)と乾燥を経て、約1週間後にお渡しします。年賀はがきにもおすすめです。

日 時 11月12日(火) ①9:00～10:20

②10:30～11:50 ③13:00～14:20

定 員 12名(4人グループを上記時間帯の3回に分けて実施 ※先着順ですので、電話で希望時間をお申し出ください)

集 合 博物館

講 師 宮路さつきさん

参加費 会 員 200円

非会員 500円

用 意 マスク・エプロン

学芸員のオタク講座①
柏崎の古代鉄生産

平安時代の鉄生産の方法や発掘調査成果について、展示や写真、遺物などを用いて解説します。

日 時 12月14日(土) 13:00～15:00

会 場 博物館小ホール及び展示室

講 師 平吹靖学芸員

(市埋蔵文化財事務所)

定 員 15名(先着順)

参加費 300円(入場料)

※招待券使用可



もうすぐお正月 八丁紙づくり

正月の飾り紙「八丁紙(袴紙)」を作いませんか? お好みの型紙を選んでいただき、カッターで簡単なものは30分、手の込んだものは1時間ほどで完成します。1回の作業で数枚できますのでプレゼントにもなります。

日 時 12月19日(木)～20日(金)

9:00～16:00

会 場 博物館エントランスホール

参加費 一絵柄 100円(+赤紙50円)

用 意 カッター



編集後記

【夏季企画展の関連イベントより】

- 良寛と貞心尼リレー講演会は7/28(日)柏崎会場の博物館で中澤資裕様を講師に迎え「近世後期の知識人と国学流行」と題してのお話。知識人(神識を中心とした人)の一人平田篤胤あつたねを師と仰いだ上杉篤興あつおき(小関村の庄屋、現燕市)。この人がまとめた良寛の歌集「本端集このはしろう(読み方はいろいろ)」も展示してありました。
- 現地学習「史跡・飯塚邸を知る」は8/17(土)午前午後の2回、小池周子様の解説で表門・主屋・新座敷と見て廻り、今まで気付かなかった事や新しい発見もあり有意義なひと時でした。現当主(15代)のお姿も拝見でき良かったです。(編集委員 中村由紀子)